

## 8小節プロジェクト

# わたしの

# かわさきのうた



あんな川崎も、こんな川崎もあるから、このまちは面白い。  
一人ひとりが自分のことばを歌いしたら、15秒につまった  
たくさんの「かわさきのうた」ができました



## 2024年度 作詞・作曲ワークショップ実施レポート

8小節・15秒で自分の「かわさきのうた」を作る  
これまでにないワークショッププロジェクト

## 8小節プロジェクト わたしの「かわさきのうた」

### 8小節プロジェクト わたしの「かわさきのうた」とは？

2024年川崎市市制100周年、そして「音楽のまち・かわさき」20周年を記念して、市民のみなさんとともに私たちのまち「川崎」のことを思い、また楽しく表現する取り組みとして、「音楽のまち・かわさき」推進協議会と市内ミュージシャンの協働により、この「8小節プロジェクト わたしの『かわさきのうた』」は生まれました。

このプロジェクトは、一人ひとりが川崎の曲を作り、歌う「作詞作曲ワークショップ」です。できるだけ多くの方が参加できるように、フォーマットを決め、簡単に取り組んでいただけるように工夫しました。手順はホームページで紹介され、誰でも取り組むことができます。また、市内で開催するワークショップで、ファシリテーターと一緒にすることもできます。

東西に長い市域には、景観にも多彩な表情があります。さらに、そこに住む人たちの人生経験が掛け合わさることで、いろんな視点からの「かわさきのうた」が生み出されました。この取り組みをぜひ多くの方に知っていただければと思っています。

### 作詞・作曲ルール

シンプルなルールの中で作詞作曲を行っていただきました。

- 決められたコード進行による8小節のメロディ (15秒以内)
- 歌詞に「川崎」を使わない

実は、今回使用したコード進行は川崎市民ならだれでも知っている「好きです かわさき愛の街」(山本直純作曲)のテーマ部分から引用しています。誰もが日ごろから親しんでいる楽曲をオマージュした作品となっています。

### わたしの「かわさきのうた」コンテスト

かわさきFMおよびテレビ神奈川でCMソングとして放送するため、2024年4月から9月に作品を募集しました。川崎市内で実施したワークショップのほか、ホームページからの一般応募も併せて109曲の応募作品が集まりました。

11月にコンテストを実施し、決まり次第、各メディアにて放送されます。また、川崎市の事業でも活用予定です。

詳しくは  
わたしの「かわさきのうた」  
特設ページで



<https://www.onmachi20th.jp/project.php>

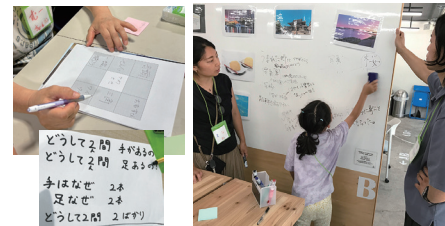
## わたしの「かわさきのうた」ワークショップの流れ

このワークショップでは、決められたテンポとコード進行に乗せて8小節の「かわさきのうた」を作ります。



自分が思う「かわさき」を4行の詩で表現します。ただし、「かわさき」という言葉は使わないというルール。

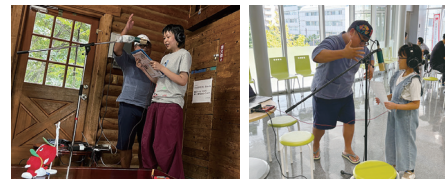
その人ならではの言葉を紡いでいただきます。



テンポに合わせて言葉をあてはめ、鼻歌を歌ったり楽器で音を出したりしながらメロディを作ります。ファシリテーターが音楽的なサポートを行います。



「ロック」や「ジャズ」など、14の異なる性格の伴奏音源を用意しました。できあがったメロディを、この音源に合わせて歌って録音し、完成です。



## 市内のプロミュージシャンが多数サポート

このワークショップは、すべてが初めての試みであり、何か決まったフォーマットがあるわけではありませんでした。その構想段階から、市内のプロミュージシャンの皆さんに関わっていただき、1年近い検討を経て、ワークショップを計画。ファシリテーターとしても参加していただきました。

様々なジャンルのミュージシャンと一緒に、オール川崎で作上げたワークショップです。

### お世話になった皆様 (五十音順)

北村安都子(シンガーソングライター) / 3年3組こくぼん先生(シンガーソングライター) / tatsu(ベーシスト)  
福本純也(ピアニスト・作曲家) / 福本真耶子(企画・歌) / FUNI(ラッパー・詩人) / 横山真男(作曲家) ほか

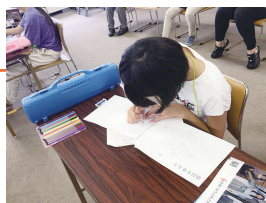
## ワークショップのようす



同じ川崎でも、場所によって出てくる言葉はさまざま! いろんな「かわさき」に出会うことができました。

### 夏休みの自由研究として

幸市民館で開催された「さいわい夏休み基地」の一環で実施。3年3組こくぼん先生と一緒に、ワークシートを使いながら曲づくり。小学生たちが夏休みの自由研究として取り組みました。

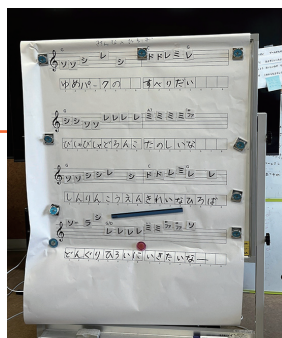


### 「ゆめパ」\*につどうみんなの自由な言葉が印象に

ラップなんて難しそう。そんな先入観を取り払ってくれるラッパーのFUNIさんと一緒に、一人ずつラップを作り、みんなの前で披露しました。\*「ゆめパ」=「川崎市子ども夢パーク」の通称

### さくら級の子どもたちと

子どもたちは事前に学校で歌詞づくりに取り組み、当日は福本純也さんと一緒に五線紙に音名のマグネットを貼りながら、曲の雰囲気をもロディにしていきました。



### 生のジャズバンドと豪華共演!

最終回はかわさきジャズとコラボしたスペシャル版として、福本純也グループが生演奏で伴奏。自分が作った歌に合わせ、ジャズバンドが自由自在に伴奏するとともに楽しい回となりました。



## こんなうたができました!



ワークショップでできた歌を一部ご紹介します。

### 市制100周年を記念して /

#### 「イチゼロゼロ」

100年前この街に  
どんな歌が流れたのか  
今ボクらはこの街で  
つないでくよ 100年先へ

### 身近な風景をテーマに /

#### 「平瀬川」

私のまちの 平瀬川  
カワセミ オナガ 鳴く声と  
さらさらキラキラ 水の音  
未来に続く 水の旅

### 自然が豊かなかわさき /

#### 「きらきらほたる」

海はつめたいいい気持ち  
山のけしき いいかんじ  
にじいろきらきら ほたるみたい  
人と自然がつながるまち

### かわさきの「音」が聞こえます /

#### 「音楽の魔法」

ゴミ収集車 5時のかね  
世界は音で あふれてる  
聞いたら皆 幸せになる  
それが音楽の魔法

### このまちに生まれてよかった! /

#### 「ぼくのまちにありがとう」

ぼくはここにうまれて  
ほんとうによかったよ  
なぜなら ともだちたくさん  
やさしいひと たくさんで  
しぜんもいいし ありがとう

### 区ごとにいろんな名物がありますね /

#### 「知ってる？」

しゅうまいホクホク 梨 柿 フルーツ  
ラーメン チャーハン  
音楽 スポーツ 工場見学 魚のにおい  
もっと知りたい 7つのくく

## 参加者の声

- 歌を作るプロセスがわかり、今までと違った音楽の見方ができるようになった。自分の言葉が歌になるのが楽しかった。歌が作れるなんてすごいことだと思ったけど、できてうれしかった。
- 川崎市の市制100周年プロジェクトに少しでも参加できて嬉しいです。
- それなりに歳を重ねると、どうしても分かったような気になってしまうのですが、今回の企画にはそのようなことはありませんでした。
- 皆さん優しくてももしろい人ばかりでしたので私も楽しく過ごすことができました。本当に参加できてよかったです。
- コード進行、小節数及び製作時間2時間という制約があるからこそ、分からないながらも、とりえず小さな決断を積み重ねていくことの大切さがわかりました。先生や周りのスタッフの皆さんの暖かいサポートのおかげで、楽しく曲づくりができました。

# ワークショップ・作品一覧

川崎市全7区13か所で16回のワークショップを実施。  
全部で118曲が出来上がりました。



日付	場所	ファシリテーター	作品タイトル
4/21	ミュージア川崎ビル会議室(幸区)	3年3組こくばん先生	「花火大会」 「イチゼロゼロ」
5/12	ミュージア川崎ビル会議室(幸区)	3年3組こくばん先生	「Door」 「みんなにここにわたしのまち」
5/19	多摩区役所生田出張所(多摩区)	福本純也/北村安都子	「FPKP! (フラベチーノ乾杯)」 「気になるまちへ気になるあなたと」
6/16	パサールベース(中原区)	3年3組こくばん先生	「もりのような ようちえん」 「収穫のうた」 「みあげたさくら」
6/22	にこぶら新地(高津区)	FUNI	「ホエールズ賛歌」 「Mr.ホワイトボード」 「point of river」 「NAMBUSEN」 「Alternative」
6/29	ミュージア川崎市民交流室(幸区)	福本純也	「みんな 幸せ」 「音楽の魔法」 「いつもの時間」 「まあいっかー」 「音のある風景」
7/13	多摩区役所生田出張所(多摩区)	福本純也/北村安都子	「競馬場イエイ!」 「学校の市内見学」 「きらきらぼたる」
7/27	登戸小学校(多摩区)	3年3組こくばん先生	「いつもの生活」 「みんなの登戸小」 「ア-夏休み」
8/2	幸市民館(幸区)	3年3組こくばん先生	「昔のここのまち」 「私の街」 「ともだちの誕生日プレゼント」 「Kawasaki SHOCK bunka」 「川崎ラゾーナ31の歌」
8/10	川崎市アートセンター(麻生区)	FUNI	「仲間」 「にんげんのふしぎ」 「タテヨミソング」 「知ってる?」 「かわさきそだち」 ほか3曲
8/11	菅生こども文化センター(宮前区)	3年3組こくばん先生	「みんなあつまるとがおこぶん」 「平瀬川」

日付	場所	ファシリテーター	作品タイトル
8/21	川崎市子ども夢パーク(高津区)	FUNI	「感謝の詩」 「ゆめバのじかん」 「青色の夏」 「100年のキセキ」 「好きだけじゃダメ?」 「のんびりゆったりLIFE」 「遊びをせんとや生まれけむ!」 ほか9曲
9/1	ハナさんハウス(川崎区)	福本純也/北村安都子	「おむすび音頭でワイワイワイ」 「だいすき」 「なつまつり」 「マーラマラマ(光り輝く)」 「川崎の町」 「素敵なお朝」 「つながるまち かわさき」
9/8	川崎市男女共同参画センター 「すくらむ21」(高津区)	FUNI	「わたしが見た景色」 「スライムと私の関係」 「おばけだいすき」 「おばけ」 「就職したくない」 「私の思い出」 ほか1曲
9/11,12	上作延小学校さくら級(高津区)	福本純也	「ぼくのまちにありがとう」 「えがおがいっぱい」 「ひらせがわ」 「みんなのひろば」 「出発進行!」
9/20	ミュージア川崎市民交流室(幸区)	福本純也グループ	「しんりんこうえん」 「子どもも大人も」 「ひみつのごほうび」 「百年のキセキ」 「しんほんちようしゃ」 「ミュートンが飛んでいく」

## 一般応募作品一覧 (順不同)

「KaWaSaKi」「やっと百歳」「ふろん太君」「とんとこ飴」「希望」「希望と未来のまち」「みどりいろ」「夏の色」  
「梨狩り」「みどりのカフェテラス」「大好きくずもち」「ニケ領の桜」「Energetic-Kawasaki」「希望と未来のまち」  
「東海道五十三次・二番目は?」「プレイキン」「ぐワァーンしゃキーン音楽のまち」「歌が聴こえる街」「ロケット発射」「生田緑地のすずめ」「かわさきの歌」「鐘の音」「多文化市かわさき」「多摩川の夕陽」「わたしのふるさと」「ああ川崎よ永遠に」「赤!青!緑!」「おながくのまち」「隣の犬公園」「君と一緒になら」「アートでつながる(川崎市アートセンター)」「風」「みんなの街角」



コロナ禍の中、「作詞作曲を通して、子どもの表現の幅を広げたい」というテーマのもと、「音楽のまち・かわさき」と協力して行ってきた「作詞・作曲ワークショップ」が形を変え、「8小節プロジェクト」として市民の皆さんが気軽に作詞作曲できるコンテンツとして発信することができました。

ワークショップをふりかえると、参加して頂いた方に共通するのは「表情」です。ワークショップが始まる前は、ほぼ全ての方が「本当にできるのか!？」と不安と疑問が入り混じった表情でした。しかし、曲が完成すると、その表情は喜びの表情へと変わっていました。自分の思いが形になり、嬉しくないはずがないのです!

たくさん作品が生まれる瞬間に立ち会えたことは、私自身にとっても貴重で感慨深い経験となりました。



3年3組こくばん先生



曲を作ったことがない人にとって曲作りとは未知の世界だったと思います。曲作り間違いないでなく、その日、その場で出来たもの。その日にしか出来ない瞬間を形にしたものです。そんな中、たくさん個性溢れる素敵な場面に会いました。

- ・自信なさげな少女が、僕の手助けなど必要とせず歌詞とメロディーを完成させ、最後は自信をもって晴々とした顔で帰っていきました。
- ・とある小学校では、「私はこの音じゃないとやだ!」と言って大騒ぎをする女の子を、周りの児童たちがうまくサポートしながら一緒になってメロディーを作っていました。
- ・大人に挟まれた男の子は「僕も一人で作ってみる」といって、しっかりと自分のアイデアを形にしました。

その一部始終を見ている僕も毎回清々しい気持ちで家に帰ります。きっとできると信じてきましたが、本当に皆さんが実現してくれて嬉しく思います。



福本純也

普段慣れ親しんだ街であっても、その街についてわざわざ文字にする、という機会はおそらく多くの人にとって、あまりないのではないかと思います。

参加していただいた方の数だけ、川崎にまつわる歌詞が生まれました。そのすべてに、その時一緒にいた友達や家族、目に写った風景、風の匂い、笑い声、そうした瞬間瞬間が閉じ込められて、宝物のようだと感じました。出来上がった歌詞に好きなメロディを乗せ、曲が生まれます。思わず口ずさんでしまう、自分だけの曲です。できた曲を披露してみんな歌う時の、嬉しそう、あるいは少し照れくさそうな、皆さんの笑顔が忘れられません。

川崎という街から、色とりどりの曲が100曲以上も生まれたこと、本当に素晴らしいと思います。その空間に立ち会えて、私もとても幸せでした。



北村安都子

今回のワークショップに参加して感じたことは、どんな人でも自分の言葉を持っているということです。そしてその言葉たちは世に出るきっかけを待ち続けているということです。

つまり、一人で言葉を紡いでいくということとはとてもハードルが高いですが、みんなで集まって気持ちが高まる場をさえ作り出せれば、歌が生まれるということなんです。「私の歌」はみんながいなければ生まれないということなんですよね。

その声が生まれる瞬間に寄り添えたこと、毎回感動させてもらえたこと、とても感謝しています。



FUNI